

“ガス窯作りのプロ集団・大築窯炉工業”の

陶芸家と窯屋を結ぶ情報誌

35窯 窯ナビ

ウラ面も情報満載

必ず良いことがある人のために送る！

DAICHIKU のお得意様向けニュースレター

【発行日】2010年9月30日 【発行人】(株)大築窯炉工業 谷口浩司

〒309-1611 茨城県笠間市笠間 2192-5 TEL0296-72-1444 【ホームページ】<http://www.daichiku.jp/>

■ 柏木一天 円夫妻 ■ 益子で5年・来年からは伊賀で再スタート



【柏木 一天(かしわざかすけひろ)】

1976年 栃木県日光市生
2001年 栃木県窯業指導所修了
2001年 伊賀土楽窯にて学ぶ
2003年 益子 濱田窯にて学ぶ
2006年 " 卒業・独立

【柏木 円(かしわざかまどか)】

1974年 三重県伊賀市生
1995年 大学卒業後家業従事
2005年 結婚を機に益子にて独立
窯を構える
2010年 長野県安曇野にて初個展

- 谷口：幼い頃はどんなお子さんでしたか
○円さん：実家が窯元でしたので、いつも5~6人の職人さんの姿を見て育ちました。本が大好きでした。
- 谷口：幼い頃のこと、今のお仕事につながるようなことはありますか？
○円さん：大人になって実家を離れてみて、家の仕事をしてみたいと思うようになりました。
- 谷口：今のお仕事で何か心と心に残る出来事を上げるとすると、なんですか？
○円さん：家業は土鍋や取り皿を中心に製造しているので、自分の作品というものがなかなかなかったんです。ある時、磁器土を使うようになって、自分の作品というものができた気がします。
- 谷口：その出来事をきっかけにそれ以前と比べて何か変わったことはありますか？
○円さん：陶土と磁土ではロクロの意識がまったく違うので、頭の切り替えが難しいですね。
- 谷口：お客様からどのようなことをほめられるとうれしいですか？
○円さん：「料理がはえる器だね」とか「つい使ってしまうよっ」と言ってもらえると嬉しいですね。毎日毎日、気に入って使ってもらっています。
- 谷口：どんなときにやりがいを感じますか？
○円さん：こんなのが欲しかったと言われたときや、やはり喜んでくれた時です。
- 谷口：最近、一番うれしかったことは何ですか？
○円さん：長野で初個展をしました。その時、お客様と直接会えて、いろいろ意見を聞いたことです。料理を盛りつけた時こそうれしく見える、とお話してくれたときには特別嬉しかったですね。
- 谷口：あなたのお仕事ぶりをご家族はどうおっしゃっていますか？
○円さん：5年間益子で過ごしましたが、母や姉が応援してくれたので頑張れました。
- 谷口：ご自身のお好きなお店、嫌いなお店は？
○円さん：好きなお店は、料理ややきものに知りたいたいことがたくさんあることと、なんでも楽しく感じるところです。嫌いなお店は、やきものとか落として割ってしまうドンくさいところかなあ。
- 谷口：今の目標、今年やりたいことは？
○円さん：もっと仕事スムーズにできる環境が欲しいです。ロクロ仕事が好きななので、とにかく仕事がしたいです。
- 谷口：大築窯の電気窯を選んだ理由は何ですか？
○円さん：工場があってアフターをよくやってくれそうだったので。わからないことがあっても、気軽に聞けそうでした。
- 谷口：大築窯のイメージは？
○円さん：親切です。線が切れたときにも、すぐに直してもらって良かったと思います。

うれしい！楽しい！大好き！ダイチク！メッセージ！

■いつも料理との相性を考えてつくっているという円さん。そのルーツは伊賀焼きの窯元、丸柱の老舗・土楽窯七代目の三女である。ご姉妹のブログによると「三女は小さいころからとても読書好きで、本だけにとどまらず、活字という活字はすべて読んでいました。トイレに持ち込むのは当たり前、本がないと眠れない、読むものがなくなると、広告の隅から隅まで読んでました。私たち姉妹は「分らないことがあると三女を辞書がわりに活用」とあります。なるほど、筋金入りの活字好き。



土楽窯ホームページより
<http://doraku-gama.com/>

■ユーザーさんの個展情報■



古川欽彌 古川雅子展
9月4日(土)～16日(木)
もえぎ城内坂店
栃木県益子町城内坂 150
0285-72-6003(代)



鈴木 稔 作陶展
9月18日(土)～10月1日(金)
最終日は午後3時まで
回廊ギャラリー門(笠間市)



いまからはじめる陶芸入門出版記念
現代と伝統のコラボレーション
柳橋 進・柳橋修二 作陶展
2010年9月1日(水)～9月6日(月)
松屋銀座7階画廊

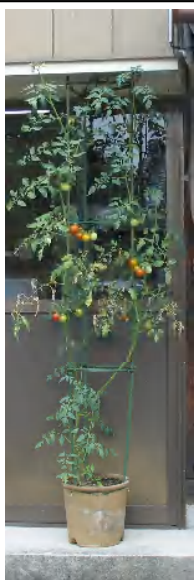


高橋協子 作陶展
9月4日(土)～9月17日(金)
最終日は午後3時まで
回廊ギャラリー一門(笠間市)

■メダカとミニトマトで夏をのりきる



■日本に生息する最も小さな淡水魚といわれるメダカ。蚊の幼虫ボウフラが大好き。そのメダカが工場と併設するやきもののお店“古窯”の中に出現しました。絶滅危惧種にも指定されているメダカですが、今ではホームセンターでも売っています。水盤に水をはり、水が汚れない特殊な石を敷き詰め、水草を入れて飼育中です。7月には卵がかえり幼魚がたくさんいます。訪れたお客様と働くみんなを癒やしています。■もう一つはミニトマト。夏、美味しい健康野菜の代表です。実家が農家の銚田(ヤマちゃん)は、あいている素焼きの植木鉢に種を植え、間引きをして、水をやり育てています。当然無農薬。アブラムシや葉虫が付く事がありますが、実にはつきません。昼休み、洗ってみんなで食べています。



■陶芸羅針盤■蹴りロクロ



■やきもの作りに根強く人気のあるのが「蹴りロクロ」です。蹴りロクロは回転も一定ではないし、下半身を動かしてつくるので体の芯がぶれやすい。反面、づくり手の息づかいやリズムが粘土に伝わって、作品に味わいとして残ります。■この蹴りロクロを千葉の丸山機械加工さんが作りました。丸山さんはなんと10,000分の1ミリという精度を出せる凄腕の持ち主。だから回転も非常にスムーズ、3回蹴るとなんと2分以上回り続ける。しかも場所を選ばない親切設計。試してみたいかたは笠間市の窯業指導所と弊社にデモ機があります。



本体が木製でアルミ天板のオリジナル手ロクロもOK!

(窯業指導所：Tel.0296-72-0316)

■2010秋・笠間の美術館情報■茨城県陶芸美術館&笠間日動美術館



今年度新たに認定された加藤孝造(瀬戸黒)を含む陶芸分野の人間国宝34名の作品が勢ぞろいします。古陶磁と近代の名品を向かい合わせて展示し、人間国宝たちの技術のルーツと、新たな表現の展開を探ります。
(茨城県陶芸美術館ホームページより Tel: 0296-70-0011)



展魯北大
山人

書、篆刻、絵画、陶芸、漆工芸など多方面に才能を発揮し、また美食家として名を馳せた北大路魯山人(1883～1959)。没後50年を経てその生き方は伝説となり、伝統に学んだ審美眼にもとづく作品とともに多くの人々を魅了しています。

(日動美術館ホームページより Tel: 0296-72-2160)

■編集後記「あとかんげん」■

■夏休みもそろそろ終盤(8/25)。学生さんは宿題の進みぐあいが気になる頃です。宿題といえば、休み中の天気や気温を記録するというのがありました。私はこれが、なんとも苦手でした。小学校時代、子供部屋は作業場の二階、ということは一階には窯があるということ。しかも屋根はペラペラの青い波トタン。下からは窯の熱気、上からは太陽の熱。そんな中、部屋の温度を記録しました。今も覚えているのは33℃。記録を見て「お前の部屋はそんなに暑いのか!？」と同級生に言われたからです。■笠間にやきもの屋さんも少なかった時代、「窯があるから」と言ってもにわかに理解してくれませんでした。■ところが、今年の暑さは半端ではない。窯も焚いていないのに35～6℃は当たり前。どうなってしまったのだろう。子供の頃は「寝冷えに注意」とよく言われましたが、今年は「熱中症に注意」。40年もたつと、こうも変わるものなんですね。